

## 資料1 滋賀県立病院の令和4年度上半期の取組

## 医療の充実

## 【新型コロナウイルス感染症等の感染対策】

- 繰り返す感染拡大のピークに対応して、病床の確保や外来での対応など、重点医療機関としての役割を果たすよう努めるとともに、がん診療、救急医療等、必要な医療提供体制確保のため、院内感染防止等の対策を行った。また、「感染対策向上加算1」の届出を行い、感染対策において周辺医療機関との連携により、地域の中核的病院としての役割を果たした。

## 【がん診療等の医療機能の充実】

- 医療技術が年々高度化する中、都道府県がん診療連携拠点病院として県民の期待に応え、放射線治療棟の整備に向けた調整や老朽化した医療機器の更新などを進め、最新の技術を導入し医療機能の充実を図った。PET-CT装置の更新は、診療時間の短縮により、より多くの患者さんに対応できるようになった。

## 【救急医療体制の充実】

- 昨年度から湖南圏域における二次救急輪番に参画し、さらに受入れ態勢を整えたことにより、受入れ患者数が着実にアップし、地域の救急医療の充実に貢献した。

## 【地域医療機関との連携】

- 野洲・守山地域を中心に、周辺の診療所との連携強化を図るため、個別訪問を積極的に行い、顔の見える関係構築を図った。また、逆紹介もしっかりおこない、地域医療における当院の役割を果たした。

## 経営の安定化

## 【診療材料の配置定数の見直し】

- ICU、HCUを含む病棟において、常時配置する診療材料の定数の削減見直しを行い、余分な在庫を持たないことで材料費削減につながるよう取り組んだ。

## 【診療報酬の適切な請求】

- 返戻レセプトの理由などの情報を各診療科医師に共有することで、病名の適切な設定や必要な診療記録の記載について協力を依頼した。また、感染対策向上加算、看護補助体制充実加算の届出を行うなど積極的に施設基準の見直しを行い、診療報酬に反映させた。

## 【DPCⅡ群取得をめざす】

- 詳細な診療データの分析により、現状と取り組むべき方向性を明らかにし、医師等の医療スタッフに具体的な取り組みを示すことで、DPCⅡ群取得に向けた取り組みに協力を求めた。
- また、周辺病院を含む他院との比較など、DPC上の当院の位置づけを、医療スタッフにデータで具体的に示し、積極的な取り組みを促した。

## 【広報の充実】

- 新しい広報誌「FACE」を発行し、スタッフの素顔とともに、患者さんと常に「向き合い」、どんな病気や困難にも果敢に「立ち向かって」、未来に「向かって」道を切り拓いていく姿を発信した。地域から慕われ、信頼される病院経営を目指す。

## 小児保健医療センター

### 医療・保健・福祉の充実

#### 【診療体制の充実】

- 令和4年度より、医師の常勤化によるアレルギー、内分泌代謝・糖尿病、発達障害の外来診療の拡充や不明熱外来の新設を行い、医療の充実に取り組んだ。
- 令和3年10月に再編した小児科専門外来(てんかん、神経筋、遺伝、発達・こころ)の円滑な運営に取り組んだ。
- 神経内科・総合内科外来では、小児科外来チーム診療を推進のうえ、専門性を高め、効率的に運営することで、診療待ち時間等の短縮を図った。
- 入院治療では、整形外科における高度な手術治療を推進するとともに、リハビリ入院や総合検査入院プログラムを充実した。

#### 【新型コロナウイルス対応等】

- 令和4年度上半期、新型コロナウイルス患者89人(延べ567人)を受入れ、入院治療を行った。
- 従前から行っている小児へのコロナワクチン接種について、5歳から11歳の患者等への3回目接種を10月に実施する予定である。

### 経営の安定化

#### 【財務管理】

- 収益は、内分泌代謝・糖尿病外来の常勤化による外来収益の増収やコロナ患者受入れに伴う病床確保料補助金収入等により、令和4年度上半期全体で270百万の黒字となった。
- 入院収益は、病床利用率向上に向けリハビリ・検査入院プログラムの充実等に取り組んだものの、新型コロナウイルスによる手術件数の減少や病院スタッフが濃厚接触者となったことによる一時的な入院制限により減少した。下半期に向け入院収益の増加に取り組む。

#### 【新たな医療サービスの提供】

- 経営基盤の安定化および新たな医療サービスの提供としてHCU病床導入の検討を行った。

#### 【全体を通して】

- 病院の経営状況およびロジックモデル目標数値の月毎の進捗状況等について、病院の運営幹事会議および運営会議にて報告および共有を行い、運営の改善や取り組みの推進を図った。

## 精神医療センター

### 医療の充実

#### 【政策医療の充実】

- 外来診療では、依存症専門外来を設置し、依存症全般の診療に対応しており、外来集団精神療法プログラムとして、アルコール依存症および薬物依存症を対象としたSMARPPとギャンブル依存症を対象としたSTEP-Gを実施した。入院診療では、断酒教育プログラム(ARP)を実施しており、離脱せん妄、アルコール精神病、薬物依存症などの急性期医療にも対応している。新型コロナウイルス感染症対策としてプログラムを休止する時期はあったものの、概ね目標値を達成した。
- 思春期・青年期の精神障害を専門的に扱う病院のニーズが高まってきており、外来診療では、中・高生こころの専門外来を開いている。学校・相談機関との連携を進めており、徐々に連携割合は上がってきている。

#### 【司法精神医療の充実】

- 精神疾患により重大な他害行為を行った人に対し、手厚い専門的な医療提供を行っており、医療観察制度に基づく指定入院医療機関として保護観察所の支援のもと保健所・関係機関と連携を図り、社会復帰を促進している。上半期の入院患者は3名、退院患者は2名であり、開棟(H25.11)以来、57名が退院した。引き続き医療観察病棟の適切な運営を行い、対象者の社会復帰促進に努めていく。

#### 【地域生活移行の促進・定着】

- 患者の実情や状況に応じて、地域で継続性のある適切な医療が提供できるよう、各職種がそれぞれの役割と機能を発揮し、地域の医療保険福祉関係機関と連携を図っており、新型コロナウイルス感染症対策としてプログラムを休止する時期があり、目標値には達していないが、社会復帰に向けたデイケアプログラムの充実に取り組んでいる。

### 経営の安定化

#### 【病床利用率の向上】

- 病床管理運営委員会において入退院の動向や患者の状態等の情報共有を行い、病床利用率の向上に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響で患者の制限を行ったり、個室が満床で個室対応が必要な患者の受け入れができないなどもあり、目標の病床利用率に達しなかったが、多職種によるカンファレンスを実施し、退院に向けての支援体制を整えており、平均在院日数は65.6日と、目標値を大きく上回った。引き続き、センター全体で、多職種による退院促進に取り組んでいくとともに、他医療機関との連携および啓発活動の推進など、積極的な受入の取組を進めていく。

#### 【適切な人件費比率、効率的な資源配分】

- 時間外勤務の縮減や医薬品、診療材料の購入額の削減に努め、いずれも目標値を上回った。今後も、さらにDX化を進めるなど業務の効率化を図っていききたい。

### 医療の充実

#### 【医療人材の確保】

- 看護師確保を図るため、就職説明会を開催するとともに、養成学校への訪問や養成学校が主催する説明会に参加するなどの募集活動を行った。
- 採用困難な職種では、採用選考実施時期の前倒しや、受験資格の見直しを行うなど、採用選考受験者の確保を図っている。

#### 【職場環境の向上】

- 男性職員の育児参画については、「イクボス宣言」による管理職の意識改革や人事評価面談の機会を通じた育児休業取得希望の把握により、取得率の向上に努めた。
- 年休について、年5日の取得義務への対応や取得日数増を図るため、年休を取得しやすい職場環境づくりに向けた意識付けを行ったほか、半日単位の取得を可能とする制度改正を行った。
- 障害者雇用では、チャレンジ雇用の拡充や定着支援の取組により、法定雇用率を上回る2.95%となった。

#### 【職場の意識やスキルの向上】

- 医療技術職員の研修について、令和3年度に多職種WGで作成した医療技術職員研修体系(案)について、各病院技師長と意見交換を行い、具体的な研修内容等について検討した。今年度の研修については、下半期に実施予定。

### 経営の安定化

#### 【総合病院・小児保健医療センターの統合】

- 病院統合に向けた課題整理、方針案の策定等を行うため、両病院の関係職員による検討組織を立ち上げ、具体的な検討を進めた。
- 両病院の一体性が高まり、機能向上と既存施設の有効活用が図れるよう、小児再整備事業の見直しを進めている。

#### 【経営形態のあり方検討】

- 県立病院経営協議会に経営形態のあり方検討について諮問を行い、専門部会を設置して議論を重ねた。(経営協議会2回、専門部会3回開催) 各会議では、委員から、経営形態に関わらず、経営全般について、多岐にわたる意見をいただいた。

#### 【医薬品費の縮減に向けた取組】

- 医薬品卸業者より、バイオシミラーへの切替について情報提供を受けて検討を行った。一部の医薬品につき切り替えを行うこととなり、今後、医薬品費用の抑制が見込まれる。

#### 【診療材料費の縮減に向けた取組】

- 病棟在庫の見直しを行い、使用頻度の少ない在庫品の縮減に向けて取り組みを進めている。

#### 【資金需要への備え】

- 将来的に病院の資金繰りが困難になる可能性に備え、金融機関と当座借越契約の締結に向けた協議を行っている。